

「プリント外れの勉強」その二「まとめる勉強」

今から四十八年前、私もやっていたと記憶しています。六年の時の恩師が「中学校の勉強は難しいぞ！大変だぞ！」と脅しまくってくださったので、入学してから毎日真面目に復習をしました。その復習のやり方が「まとめる勉強」でした。この勉強法について、筆者の国立氏は次のように書いています。

「『とにかく時間がかかる』『そもそも教科書はまとまってい
る』『覚える気でまとめていない子もいる』などなど、**弱点が多すぎる勉強**です。さらに、まとめるだけで問題を解かない子も多くいます。問題を解いて理解度を調べるということをやっていないので、ひどい結果しか待っていません。」

なかなか辛辣（しんらつ）な言葉も入っていますが、的を射ていると私は思います。確かに、**勉強の本質である「できないことをできるようにする」という勉強方法ではありません**。そのうえ、**時間と手間がかなりかかります**。がんばりに見合う**成果が出ない典型的な勉強方法**です。

さらに筆者は、「**まとめる勉強**」は**テスト前には絶対やってはいけない**と言っています。「テスト直前に間違ってしまうという現実を見たくない」という繊細な気持ちが生まれるので、自分のでき具合を確認しなくてもよい「**快適な勉強**」に逃げます。「**頑張っている自分**」を**装うことができる**ので、「**まとめる勉強**」はとても都合がよい、と筆者は書いています。

この「**まとめる勉強**」は、**中学一、二年の女生徒に比較的多く見られます**。それも、理科や社会といった、女子がやや苦手とする教科に多いようです。英語においても結構見かけます。色ペンやマーカーでカラフルにしたり、時にはシールや付箋等を貼ったりして、**ノートが一つの芸術品のようになっている場合もあります**。**そのできばえにうっとりする人も**いるのではないのでしょうか。

「**まとめる勉強**」をやっていた私は、それを自然とやめてしまったように記憶しています。ベストの勉強方法ではないとわかったからでしょうね。

先日、空き教室に置かれた「自主学習ノート」を見てみました。私の見た範囲で言うと、三年生のノートには、その学習方法の跡はほとんど見かけませんでした。しかし、一、二年生のノートには結構ありました。もちろん、男子より女子のノートに多くありました。

「**まとめる勉強**」も努力の一つの形ですので、やってはいけないとは言いません。しかし、**それだけで「勉強した」「力が付いた」と思っただけはなりません**。「**できないことをできるようにする**」ことを、その次にやるべきです。でも、それをやるだけの時間があるかどうか……限られた時間の中で、最大の効果を収める方法を考えてみましょうね。（二月二十六日 記）